

I 実践例

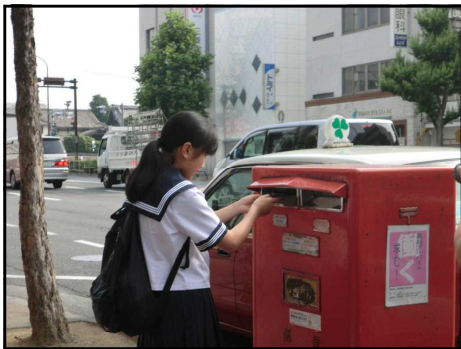
1 人権教育の目標

- (1) 自他の良さを認め合うなどの人権感覚を身に付けるとともに人権意識を育む。
- (2) 正しい見方，考え方，強い意志，豊かな心情をもった生徒を育て，励まし合い，助け合う人間関係を培う。

2 人権教育推進上の具体的課題

- ・一人ひとりが個人として尊重され，互いに認め合い，励まし合える人間性豊かな学校づくりを推進する。
- ・校内研修を通して，教職員の人権教育についての正しい理解と認識を深めることや人権感覚や人権意識を高める。

3 課題解決のための努力事項と具体的施策

努 力 事 項	具 体 的 施 策
1 人権感覚や人権意識をはぐくみ，「優しい心」や「助け合う心」を育てながら人権尊重の精神の涵養を図る。	・コミュニケーション科を柱に，教育活動全体で，自分自身も他の人も大切にしようとする思いを育む。  二年 コミ科授業
2 小規模校の特長を生かした集団活動を重視し，協調性や連帯感を高める。	・教育活動全体で，相手の立場に立って考えることや相手の話に耳を傾けるスキルを身に付ける。  教室掲示
3 子ども会や地域社会の中の生徒たちの実態を正しくとらえ，生徒指導と関連を図る。	・道徳教育を通して，思いやりの気持ち，協調性や公正・公平などの態度を養う。 ・友愛通信を通して特に地域のお年寄りとの関係を強めいたわりの心を育成する。  「友愛通信」 修学旅行先から投函

4 生徒の発達段階を正しくとらえ、生徒（同士）や教師との人間関係の充実を図る。 5 人権教育についての教職員の共通理解を図る。	・ 敬老会・体育祭・澄水祭（文化祭）等の地域合同行事に積極的に参加するなど地域との絆を強化する。  中里学区敬老会 ・ 澄水祭に作品を発表することで、地域社会への関心を高める。  合同文化祭「作品展示」 ・ 清掃や給食指導等，日常生活の指導の充実を図る。 ・ 集団活動を生徒自身の手で企画運営するために支援を行いながら協調性や連帯感を育成する。 ・ 異学年の交流を増やすことで学年を超えた助け合う心や信頼関係を育成する。  小中合同 オリエンテーリング ・ 小中合同会議（研修会），職員会議，学年会，生徒指導委員会等で問題点等について共通理解に立って指導にあたる。 ・ 定期的に教育相談を実施する。 ・ 職員間の共通理解を図るために人権教育指導資料による校内研修を実施する。
---	---

4 成果

- (1) 本校の種々の行事は，地域一体をベースに小中一貫教育を柱として実施している。生徒は，この多くの体験を通して，郷土愛やお互いを思いやる心（態度）を育むことができた。
- (2) 本校の生徒は，過疎的な地域性や小規模（少人数）校の環境からか，自尊感情より他尊意識が高い傾向にあるが，励まし助け合いながら自己肯定感を高めることができる環境が整った。

II 今後の課題

今後も，「少人数・地域一体・小中一貫」の特長を生かした日々の教育活動を大切に，自他の良さを認め合うなどの人権感覚を身に付けさせるとともに人権意識を日々育てたい。